

障害者差別

中 一

私は保育園に通っていた頃、足が不自由でうまく歩けない女性と鬼ごっこをして遊んだことがあります。その女性とは、みんなが仲良く話したり、遊んだりと、何の偏見もなく楽しく過ごすことができました。しかし、少し大きくなり、小学校に上がってからは、障害のある人に対して心の中でひどいことを思ったことがあります。

小学生の時、私のクラスには障害のある子がいました。その子に対して周りの男子が

「こっちに来るなよ。」
などの言葉を笑いながら言っている場面を目にしました。その時、私は男子と一緒にあって笑って見ているだけでした。

町や駅で手足が不自由な人がいたときも、私は一歩引いた目で見て、こそそと友達と話していませんでした。

中学校に入学し、人権学習がありました。いろ

いろな差別について考えたとき、私にも思い当たることがあり、私は知らないうちに「障害者差別」をしていたのだと気づきました。そこで、これからは差別をしないように、心がけなければならぬ大切なことを考えてみました。

一つ目は、自分自身が「差別の心をもたないこと」です。差別の心をもってしまったら、私の行動や判断が差別を生んでしまいます。そこで、障害のある人に出会った時に、何か困っている様子ならば、進んで声をかけたり、手伝ったりと、積極的になろうと思いました。

二つ目は、「周りの人に流されないこと」です。小学生の時のように、周りの言動に流されてしまうのではなく、正しい判断ができるようにしようと思えました。そして、一人でも多くの人が差別をしなくなるようにまずは私自身が変わって、「障害者差別」をなくしたいです。

三つ目は、「障害のある人達のためボランティア活動に積極的に参加すること」です。ボランティア活動に参加することは、今の私にはとても勇気がいることです。しかし参加して身の回りのお世

話や、できないことの手伝いをしたいと思いましたが。そして、人権学習で学んだように、積極的にコミュニケーションをとりたいと思いました。自分の好きなことについて話を聞いていただいたり、また、話をしていただいたりと、楽しく会話をし、打ち解けることができたら、私自身にとっても、とても意義のある時間になると思います。

人権学習を通して、私はたくさんのことを学び、考えさせられました。そしてだれにでも平等に生きる権利があることを強く感じました。障害があることにより、不自由に思う人がいるならば、平等にできる社会にすることが大切だと改めて思いました。社会を見てみると、多くのことが改善されているように思います。視覚障害者誘導用ブロックや、障害者用トイレ、音響信号機など、障害のある人たちが安心して生活できるよう社会環境が整えられています。それでもまだまだ、不十分なところはあると思います。本当の意味で障害のある人たちが、普通に生活が送れる社会を作らなければならぬと思いました。

そして、私が小さかった頃のように、誰とでも

仲良く話したり、遊んだりと、心のバリアを取り除くことが何よりも大切だと思いました。

私は人権学習を通して、今までの自分の考え方や感じ方を変えていこうと思いました。日本だけでなく、この世界から「障害者差別」がなくなればいいと思います。人権について学習して、もつとこのことについて考えながら生活していこうと思えました。改めて「人権」はとても大切なことだと感じています。